

○国際交流・社会貢献等の概要

●海外研修

海外事情

アメリカハワイ州で行う「海外事情」研修は、学内で10～12月に3回の事前授業を行い、英語及びハワイの地理、観光、歴史、文化、渡航手続き等の講義を経て実施する。8泊10日の研修はハワイ大学マノア校にて行ない、月曜から金曜の5日間（午前中4時間、合計20時間）のスペシャル・イングリッシュ・プログラム(SEP)で生きた英語を学修する。

研修中はワイキキビーチ周辺のホテルへ滞在。数日間の海外滞在を体験し、地元の人たちとコミュニケーションを取ることで、それまでに感じたことのない興味、好奇心、向上心、楽しさを芽生えさせ、語学やその他の学問に対するモチベーションとなって自己に磨きをかけることに繋げる。

ハワイ大学にて語学研修を受講後修了証を入手の上、これを提示し、さらに帰国後事後レポートを提出することで、一般選択科目として2単位が与えられる。年間44単位の履修登録の上限単位とは関係なく受講することができる。

なお海外教育機関等との提携については、以前行っていたフィンランドセイナヨキポリテクニク大学や中国南海大学濱海学院とは提携の更新を行っていないため、現在までのところ、海外の教育機関等との提携はない。

●協定校

学校法人群英学園育英メディカル専門学校

本学のスポーツマネジメント学科にける資格取得やスポーツ関連企業等への就職を促進するために、関連教育を実践しているメディカル専門学校との協定を締結し、以下のように学生に便宜を図っている。

本学在学中の学生で「特別聴講生」として認められたものは、育英メディカル専門学校の授業を受け、単位を修得することができる。また大学在学中には授業料や入学金などの免除・減免措置を受けることができる。

※平成25年入学者まで適用。

●大学間連携

「単位互換に関する包括協定」の締結

群馬県内の7大学 群馬大学、群馬県立女子大学、関東学園大学、上武大学、東洋大学、共愛学園前橋国際大学、放送大学で単位互換に関する包括協定を取り交わしている。

これらの大学間のいずれかに在籍する者で「特別聴講学生」として受け入れを認められた者は、この協定により他大学の授業科目を履修し、単位を修得することができる。

●産学官連携

○群馬ダイヤモンドペガサスとのスポーツマネジメントにおける以下に掲げる項目等に関する産学連携

1. スポーツマネジメントの研究と実践（スポーツビジネスにおけるマネジメント調査・研究）
2. 地域活性化策の共同研究と実践（地元商店街とのタイアップ事業構築）
3. ボランティア運営の研究と実践（開催ホームゲームにおけるボランティア組織作りと実践）
4. その他、地域貢献における研究

○伊勢崎市教育委員会との伊勢崎市立学校の教育活動への支援に関する連携
将来の社会を担う国際的視野に立った立派な人材を育成するために、本学と伊勢崎市教育委員会で相互連携・協力を行うもの。本学からは、伊勢崎市立学校のカリキュラムパートナーとして、従来までに培った教育資源を活用し、伊勢崎私立学校の教育活動の円滑な推進に対して可能な範囲で支援を行っていく。また伊勢崎市教育委員会では、本学で必要とする教育情報の収集や研究・研修の場として、可能な範囲で提供を行っていく。

○中小企業金融公庫前橋支店との相互協力協定

本学における研究成果等を地域社会にいつそう円滑に還元すること及び緊密な情報交換を行うことにより、地域の産学連携を推進し、もって地域中小企業及び地域社旗の発展に貢献することを目的として協定を締結した。

具体的には、①本学における研究成果等のシーズと地域中小企業の経営相談ニーズのマッチングのコーディネートを行っていく。②中小企業金融公庫前橋支店の取引先からの経営相談に関する支援、③地域中小企業の経営相談の情報収集及びそれに対する情報提供などの事項に取り組んでいく。

○群馬県が主導する「ぐんま地域・大学連携協議会」へ参画し、行政（市町村等）が問題提起するモデル事業に共同して取り組んでいる。これは地域と大学との連携・協働を促進し、大学等の知的資源を地域課題の解決に活用する仕組みを構築するためのものである。

・21年度採択モデル事業

- 太田市より事業所の子育て支援策と労働環境の整備に係る自治体の役割」
- ・ 22年度採択モデル事業
伊勢崎市より「ものづくり企業の販路拡大のためのインターネット活用策の研究」

●社会貢献

○公開講座

平成 23 年度実施

- ・暮らしに役立つ医療の知識Ⅰ
大切な人の命救えますかーとっさの時の救急蘇生法ー
10月31日
- ・暮らしに役立つ医療の知識Ⅱ
頑張らない介護を目指して
11月10日・17日・24日
- ・教養と文化講座Ⅰ
地震と津波
9月28日・10月12日・26日・11月9日
- ・教養と文化講座Ⅱ
初心者からはじめるワープロとはがき作成入門
10月18日・25日・11月1日・8日
- ・教養と文化講座Ⅲ
ドラッカーの視点で見る日本社会
10月19日・26日・11月2日
- ・教養と文化講座Ⅳ
パソコン講座
2月8日・10日・15日・22日・29日
- ・スポーツ講座
速く走るためには！
11月20日・27日

○絵手紙を通じた被災地応援

公開講座でも実施した絵手紙について、授業の指導者である理事長が本学の学生らに呼びかけ、東日本大震災で被災した地域の学校へ、絵手紙で応援メッセージ送ることを提案。早速学生らに加え教職員も一部参加し

て、およそ120名が描いた絵手紙を、理事長自ら石巻市、気仙沼市の教育委員会へ直接届けている。

○被災地支援と絵手紙

宮城県の石巻工業高等学校で本学野球部OBがコーチをしていることから、被災地支援の一環として、上武大学硬式野球部の監督、コーチ併せて総勢40名ほどが石巻工業に赴き、高校のグラウンドで合同練習を開催した。12月の厳しい寒さの中ではあったが、いつしか寒さも忘れるくらい、高校生たちは夢中になって練習メニューをこなし、サポートする本学学生も熱心に対応していた。また練習終了後、群馬から持参した食材や調理器具などを用いて、参加者全員でのバーベキューを楽しむ懇親会も開催した。そこでは本学澁谷理事長から長さ24メートルの絵手紙が石巻工業高校硬式野球部の主将に手渡された。これは本学の絵手紙サークルの部員と一部の野球部員たちが協力し、石巻工業高校の春の選抜甲子園大会出場とその活躍を祈念するために描いた応援メッセージである。絵手紙を広げ、24メートルにわたって描かれた熱い思いは、高校の部員や学校関係者にも伝わってくれたようで、さっそく高等学校内に展示してくれるとのことであった

○国際交流の一環としての絵手紙

ビジネス情報学部ではアジア地域ビジネス学科に在籍している留学生がたくさんいるが、今年からこの留学生たちに日本の文化の理解や日本人とのコミュニケーションの促進を図ることを目的として、新たに美術の授業を開講しそこで絵手紙を教授している。講師は絵手紙協会の公認講師でもある澁谷朋子上武大学理事長である。

筆を持つのも初めてで、絵も描いたことがないという留学生もいたため、はじめのうちはとまどっていたが、徐々に描くことに慣れ「ヘタがいい、ヘタでいい」という絵手紙の基本的な考えにも理解が及ぶようになった授業の後半では、留学生ならではの独創的な味のある絵手紙を描くようになっていった。

こうした本学の取り組みに関心を持ったのが、本学の客員教授で日本絵手紙協会会長の小池邦夫先生である。先生は澁谷理事長からこうした話を聞き、留学生に強い関心を持たれるようになった。そこで7月に小池先生による特別授業を開くこととなった。学生たちは絵手紙のいろいろな話を直接小池先生から披露してもらい、熱心に耳を傾けていた。また実際に描かれた絵手紙を見て、小池先生は「日本人の若者だけでなく、留学生にも十分に楽しんでもらえる、気持ちを伝えることができる」と感想を漏らしており、今後世代

を超え、国境を超えて、絵手紙という文化が根付いていく縮図を上武大学に見出していたようであった。

○さまざまな機関や団体、行政などからの要望に応じて、本学教育職員を送り、社会貢献の役割を担っている。

・学長

群馬大学顧問、群馬大学名誉教授、野口英世アフリカ賞医学研究分野推薦委員、日本私立大学連合会公財政改革委員会委員、高崎市公立大学法人評価委員会委員、社団法人コラボ産学官顧問、NPO法人北関東バイオフォーラム会長、高崎総合医療センター臨床倫理委員会委員、群馬県柔道連盟顧問など

・副学長

厚生労働省第3次対がん総合戦略研究事業中間・事後評価委員、厚生労働省厚生科学審議会専門委員、財団法人がん研究振興財団評議員選定委員会委員、公益財団法人武田科学振興財団理事、公益財団法人金原一郎記念医学医療振興財団研究費審査委員会委員、公益財団法人微生物化学研究会研究アドバイザー、東京大学大学院新領域創成科学研究科客員教授、国立大学法人東京医科歯科大学客員教授、独立行政法人国立がん研究センター東病院外部評価委員会委員、独立行政法人産業技術総合研究所ヒト由来試料実験倫理委員会委員長、第36回日本リンパ学会総会招待講演、平成24年度日本生化学会関東支部例会特別講演など

・その他

私立大学等研究設備整備費等補助金等に係る選定委員会委員
伊勢崎市廃棄物減量等推進審議会委員など

○群馬産学官連携推進会議への参画

群馬大学、前橋工科大学、前橋商工会議所が主催する地域連携・産学官連携のための同会議に参画しており、知的財産と産業の融合及び産業界活性化を更に推進するために、共同で取り組んでいる。